

ツル也其レガ極テ見マ欲ク思給ヘ候シカバ罷出テ見給ヘムト思給ヘシニ年ハ罷老ニタリ人
ノ多ク候ハム中ニテ見候カ、被踏倒テ死候ナム益无カリケムト思給テ人不寄來ザラム所ニ
テヤスラカニ見給ヘムト思給ヘテ立テ候ヒシ札也ト陳ケレバ陽成院此ヲ聞シ食シ此ノ翁極
ク思ヒ寄テ札ヲ立タリケリ孫ヲ見ムト思ケム專理也此奴ハ極ク賢キ奴ニコソ有ケレト感ゼ
サセ給テ速ニ疾ク罷返リテ仰セ給ケレバ翁シタリ顔ナル氣色ニテ家ニ返テ妻ノ嫗ニ我ガ
構タリシ事當ニ悪カラシヤ院モ此ク感ゼサセ給フト云テ我レ賢ニナム思タリケル然レドモ
世ノ人ハ此ク感ゼサセ給不受申ザリケリ但シ翁ノ孫ヲ見ムト思ケムハ理也トゾ人云ケルト
ナム語リ傳ヘタルトヤ

〔拾遺和歌集九〕大隅守さくらじまの忠信がくに侍ける時こほりのつかさにかしらのまろき
おきな侍けるをめしかんがへんとし侍にける時おきなのよみ侍ける
老はて、雪の山をばいたゞけどまもとみるにぞ身はひえにける

このうたによりてゆるされ侍にける

〔宇治拾遺物語九〕いまはむかし大隅守なる人國の政をまためおこなひ給あひだ郡司のまど
けなかりければ召にやりていましめんといひて先々の様にまどけなきことありけるには罪
にまかせておもしろく軽くいましむる事有ければ一度にあらす度々まどけなきことあればおも
くいましめんとてめすなりけりこゝにめしてゐてまゐりたりと人の申ければさきんくする
やうにまふせてまろがしらにのぼりゐたる人まもとをまうけて打べき人まうけてさきに人
ふたりひきはりて出きたるをみれば頭は黒髪もまじらすいとまろく年老たり見るに打せん
こといとおしくおぼえければなにごとにつけてかこれをゆるさんとおもふに事つくべきこ
となしあやまちどもをかたはしよりとふにたゞ老をかうけにていらへおるいかにしてこれ